

西洋服飾の史的事象によるジェンダー論

Gender Studies in the historic phenomenon of
Western costume

2008～2010 年度

文部科学省委託 服飾文化共同研究拠点事業報告

2011.3

<課題番号 20005>

西洋服飾の史的事象によるジェンダー論

Gender Studies in the historic phenomenon of

Western costume

共同研究者

伊藤亜紀 (国際基督教大学教養学部)

水野千依 (京都造形芸術大学芸術学部)

新實五穂 (お茶の水女子大学生生活科学部)

目次

序.....	3
伊藤亜紀	
Io che sono vestita di blu	
- L'espressione di sé nel modo di vestire della scrittrice Christine de Pizan –.....	4
水野千依	
聖母のマントとキリストの異性装.....	27
新實五穂	
Travestissement de George Sand et de l'heroine de <i>Gabriel</i>.....	64
マリア・ジュゼッピーナ・ムッツアレツリ (山崎彩訳)	
クリスティーヌ・ド・ピザン (1365-1431 年頃) イタリアからフランス、	
そして日本へ.....	75
参考文献.....	93

序

本研究は、イタリアおよびフランスにおける服飾の史的事象を通して、多様なジェンダー意識が、中世から近代にいたる歴史の中でいかに成立してきたかを考察したものである。研究方法としては、手稿、書簡、回想録、小説、戯曲、韻文作品などの文献資料と、壁画や板絵、写本挿絵、彫像、服飾・風俗版画、諷刺画などの図像資料とを用いて、複眼的な視点から実証的な調査をおこなった。より充実した研究成果を得るため、現地（イタリアおよびスイスの諸聖堂、フィレンツェ国立図書館、マルチャーナ国立図書館、シエナ国立絵画館、アルスナル図書館、カルナヴァレ博物館など）での資料収集・調査・分析を、国内の大学図書館（小樽商科大学附属図書館など）での書誌学的な調査などを実施した。

本報告書には、共同研究者それぞれの成果報告とともに、本プロジェクトの総括として、2010年秋にボローニャ大学文学部教授マリア・ジュゼッピーナ・ムッツアレツィ氏を招聘しておこなわれた講演会（11月1日には東京のイタリア文化会館アネッリホール、11月2日にはキャンパスプラザ京都（関西イタリア史研究会共催））の記録（日本語訳）を掲載する。その他の研究成果である著書や学会誌掲載論文等については、巻末に付された参考文献をご参照頂きたい。イタリア服飾史、イタリア美術史、フランス服飾史という、専門を異にする3人の研究者によるこのたびの成果が、今後のヨーロッパ服飾史やジェンダー研究等の一助となればさいわいである。